

## 保育計画成果報告書

法人名等	合同会社パパママ保育園
施設名	パパママ保育園
報告者（役職）	高橋宏典（園長）
住所・連絡先	宮城県仙台市泉区山の寺3丁目27-10
	☎ 022-209-4739
	E-mail rc36hiro@gk2.so-net.ne.jp

○タイトル（保育計画）

子どもと地域のやすらぎの場

○主な助成備品

東屋

### 1. 保育計画策定の目的

本園では、子どもの成長に欠かせない「原体験」を重視しています。

原体験とは、自然物を対象とした五感による直接体験をさし、自然物で物をつくったり、遊んだり、探したり、この原体験が多い子と少ない子では、その思考力にも大きな差が出てくると言われています。

近年の子どもは、本からの知識、テレビやインターネットからの情報による知識はとてもよく身につけていますが、“直接体験”は、絶対的に不足しています。そのため触ったり、嗅いだりする活動をとまなう“直接体験”が近年の子どもに特に必要です。

そのため、本園では、園庭で裸足の活動を行っています。



園内には菜園があり、ジャガイモ、ナス、ミニトマト、インゲンなどを栽培し、成長してゆく植物の変化に気づく子どもを育てる保育活動も行っています。また、梅の木、柿の木もあり、梅の実で「梅シロップ」を作ったり、柿の木の実を収穫したりしています。他にも紅葉の木などの樹木が園庭にあり、子ども

たちは季節による木々の変化を感じ取っています。

このように年中園庭で活動している中、園庭には日差しを遮るものがなく、日陰がほとんどありません。そこで、園庭に「東屋」の必要性を感じていました。東屋があれば、特に真夏などは、日陰での土遊びや、水分補給時の休憩場所にもなります。



また、本園では、地域の住民と子どもたちのふれあいも大切にしています。園庭に東屋があれば、訪れた方々の休憩場所（憩いの場）にもなると考えました。

## 2. 具体的な実施内容

### 【土遊び・裸足の活動】

本園は園庭が広く、天気の良い日は、基本的に園庭で裸足の活動を行っています。裸足で活動することで、土や砂、どろの感触を直接感じ取り、子どもたちの感性が豊かになっていくと考えられます。

子どもたちはどろんこ遊びや自然とのふれあいが大好きです。しかし、夢中になる中で、強い日差しが時には熱中症を引き起こすこともあります。そうした中で、東屋は日差しを遮り、子どもたちの健康面に役立つものと考えられます。このように、日陰の遊び場の確保、水分補給時のやすらぎの場として活用できました。



### 【地域との連携・安らぎの場】

本園では、地域住民との子どもたちのふれあいを大切にします。地域の方に来園いただいた際に、東屋は「子どもたちを見守る場（安らぎの場）」として活躍してくれました。



## 3. その成果と評価

当園の保育方針の中に、以下の3つの目標があります。この目標における、東屋の成果を紹介します。

### 【安全・安心な保育】

熱中症対策としての東屋の存在は大きな影響力があり、夏場の日陰と日向での体感温度に大きな差が認められました。また、子どもは背が低いため、地面からの反射熱を受けやすいですが、東屋の下では、反射熱をほとんど感じられませんでした。このように、安全・安心な保育のための熱中症対策として有効でした。

### 【健康でしなやかな体をつくる保育】

昨今の保育活動において、暑さのために外遊びを控えることもあります。安全第一として、酷暑のために外遊びを控えていたような日も、東屋ができてからは外遊びもできるようになりました。健康でしなやかな体をつくるための、また身体的負荷を適度にかけるための調整機能として東屋を活用できました。

### 【豊かな感性を育てる保育】

秋に園庭で芋煮会を行いました。テーブルをセットし、秋空の下、東屋で食べる芋煮は格別でした。子どもたちの豊かな感性を育む一助として東屋の活躍は大きいものでした。

### 【その他の効果】

#### ① 自然災害に対する防備的存在

- ・台風時には園庭にある移動式柵等を東屋に縛り付けることで、飛散防止に役立てることができました。
- ・雪対策として、あまり雪をかぶらないでほしい遊具等を東屋下に置くことで、積雪対策として東屋が活躍しました。

#### ② 地域への発信

- ・地域自治体会長が、本園東屋の存在を聞いて視察に来られました。目的は、公園への設置による高齢者の熱中症対策でした。結果、公園への設置が決まりました。本園熱中症対策の東屋が、地域に広がり、地域住民の熱中症対策の一環となったことは喜ばしいことです。

#### ③ 他園への発信

- ・他園からも視察に来られました。来園された保育士の方々に「これはいい！」というお言葉をいただきました。しかし、予算的に簡単に設置できるものではないので、この度の助成に心から感謝しております。

## 4. 今後の課題と展望

今後は、地域の人的資源の活用として、地域の方々に側面から保育をサポートしていただき、「ふれあいを通して、子どもたちにコミュニケーション能力を身につけさせる」「より多くの目で、子どもたちの活動を見守る」ことを今後の課題としたいと思います。

本園の周りには多くの高齢者の方々が住んでいます。核家族化が進んだ現在、子どもたちとお年寄りとのふれあいには、心情面で大きな意義があり、心の安らぎの相乗効果が期待されます。この活動の中で、東屋は「高齢者が子どもたちを見守る場（安らぎの場）」として活躍することと考えられます。

以上、園庭の「東屋」は、「子どもたちの健康を守る設備」「地域との連携の中での安らぎの場」として、今後も大きな展望が期待されます。